

習熟度別少人数学習指導の推進と課題 ——小金井市の実際を通じた考察——

小川 順弘*

* 帝京短期大学生生活科学科

要 旨

本論は、2001年度に実施された国立教育政策研究所の小中学校教育課程実施状況調査の報告にある少人数学習指導が如何に習熟度別少人数学習指導へと推進されていったかを論じている。

このことについて、小金井市の実際を通じ考察し今後の課題を提起している。本論の内容は次のとおりである。

1) 小金井市における習熟度別少人数学習指導の概要 2) 習熟度別少人数学習指導を推進するための指針と具体的実践事例。3) 結論と今後の課題。

キーワード：習熟度別少人数学習指導

I はじめに

平成28年度に発表された文部科学省の調査結果によれば平成12年度における全国の小学校での習熟度別少人数学習指導の実施率は、小学校38.8%、中学校では31%であり、平成25年度には小学校82.9%、中学校78.9%へと向上している。そして、加配定数を活用したこの方法には効果があると評価している¹⁾。

この習熟度別少人数学習指導の推進には、教育委員会や各学校が多様な工夫を重ね課題を乗り越えていったことが強く認められる。

平成13年度に国立教育政策研究所教育課程センターにおいては、小学校第5-6学年、国語・社会・算数・理科・約3500校、約20万8000人・中学1-3年、国語・社会・数学・理科・英語・約2500校・約4万3000人の規模で小中学校教育課程実施状況調査²⁾を実施した。

このとき同時に児童・生徒の学習に対する意識や教師の指導の実際等について明らかにするための質問紙調査も実施した。そして、これらの調査結果のまとめにおいて基礎的な学力の定着の向上が求められた。

また、指導形態に関する調査結果から、教科として算数・数学・英語で多く少人数指導実施されているものの習熟度別少人数学習指導ははまだ広く実施されていないこと。さらに、指導形態の実施の有無によるペーパーテストの結果での差異は認められないと述べている。

しかし、習熟度別少人数学習指導についての取り組みが緒についたばかりであるので、指導方法や教

材開発といった課題を踏まえつつ一層の充実を図る必要があると方向性を示し、各学校での積極的な取り組みを求めている。

さらに、平成14年度には25の都道府県で独自の学力状況調査が実施されるので、その結果を活用し各学校が教科の指導方法の改善・充実を図ることができるよう各教育委員会は支援策作成の糧として欲しいと強い期待を述べている³⁾。

このような背景のもと平成14年度頃より東京都の多くの区市町村教育委員会は、未来社会を「心豊かにたくましく生きる」子供たちの育成のためには、基礎的な学力の定着が最も重要な課題であると捉え、TTあるいは少人数学習指導を全小中学校で実施するように努め、加配教員が配置されていない学校へは区市村独自の方針で予算措置を行い、非常勤講師などを配属するようにした。

そして、現在、東京都では基本的にTTではなく学級数を超える習熟度別少人数の学習集団の編成を行い、指導方法の工夫改善を授業改善プランを活用し推進している。

心豊かにたくましく生きる子供たちの育成のためには、学級数を超えた習熟度別少人数学習指導実施が求められ、閉鎖的な学級王国から一向に進展していかない学校現場を改革し、開かれた学級づくりを目指すねらいがあり、当初、一部教員の中には新しい考え方には、賛同できず反対する者もあった。

各校では、東京都・区市町村教育委員会の趣旨を受けるとともに、このような状況を改善し適切な少人数学習指導を推進し、保護者や地域の期待に応えるべく習熟度別少人数学習指導の推進を図ってきた。

子供たちの未来には、主体的な学びの確立が必要であり、そのために習熟度別少人数学習指導を推進していく事が重要であると考えた結果である。

そして、指導計画・学習指導案の作成、教材教具の収集開発、評価活動を組織的に行うことを課題とし、このことをより円滑に推進していくための組織的役割を研究し、教員集団としての資質の向上を目指した。

II 習熟度別少人数学習指導の推進

習熟度別少人数指導の推進の実際を平成14年度からの小金井市（小学校9校、中学校5校）を特に小学校を中心に見ることにする。

小金井市においては、教育委員会と小中合同で常に実施している校長会が連携を図り、その推進を図っていった。さらに、校長会での共通理解としては、各校の実情を配慮しながらも次の4点を推進していくことであった。

1. 基礎学力の向上を目指した習熟度別少人数学習指導推進のため、組織の役割としての視点を話し合う。

2. 4つの視点から実践を記録する。

- (1) 保護者の理解
- (2) 教員指導
- (3) 習熟度別少人数学習指導・体制づくり
- (4) 相互の報告・連絡・相談

3. 習熟度別少人数学習指導を推進するための方策を検討し、まとめる。

- (1) 保護者の意識を高める。
- (2) 教員の意識改革
- (3) 習熟度別少人数学習集団の指導の工夫
- (4) 学校の体制づくり

4. 成果と次年度の課題を明らかにする。

そして、小金井市の校長会では習熟度別少人数学習指導を図1のようなこのような構造図で考えた⁴⁾。

【小金井市における習熟度別少人数学習指導の概要】

1. 各小学校の加配教員の配置状況

小金井市では、平成14年度より東京都の少人数指導加配教員の配置が開始され、平成16年度には、市内全小学校（9校）に配置された。

また、平成15年度2学期より「小金井市基礎学力充実事業」⁵⁾として、市内全小学校の1年生の算数指導を対象にした非常勤講師を配置するようになり、市独

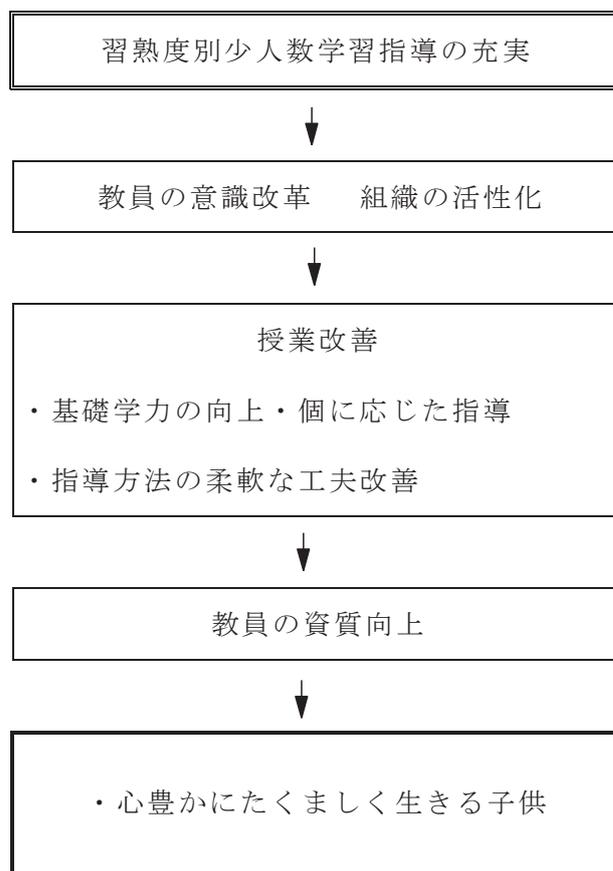


図1. 習熟度別少人数学習指導の構造図

自の少人数の学習集団を編成して指導を行う施策がとられ現在も継続されている。

その態様は以下の通りであり、平成16年度と平成27年度を比較してみると次のようになる。

(1) 平成16年度

1) 配置の種別

- ア 国・都費による配置・・・5校（6名）
- イ 雇用創出事業⁶⁾による配置・・・2校（4名）
- ウ 市費による配置・・・9校（9名：1年生を対象にした非常勤講師）

2) 指導教科の種別

- ア 算数・・・9校（18名）
- イ 国語・・・1校（1名）

3) 指導学年の種別

- 【算数】（全9校）
- ア 1～6年生・・・2校
 - イ 1・3～6年生・・・2校
 - ウ 1・4～6年生・・・1校
 - エ 1・3・4年生・・・1校
 - オ 1・3・5・6年生・・・1校
 - カ 1年生のみ・・・2校

【国語】

- ア 1～4年生・・・1校

(2) 平成27年度

1) 配置の種別

- ア 国・都費による配置・・・9校（9名）
- イ 雇用創出事業による配置は終了
- ウ 市費による配置・・・9校（9名：1年生を対象にした非常勤講師）

2) 指導教科の種別

- ア 算数・・・9校（18名）
- イ 国語・・・0校

3) 指導学年の種別

【算数】（全9校）

- ア 1～6年生・・・1校
- イ 1・3～6年生・・・8校
- ウ 1・4～6年生・・・0校
- エ 1・3・4年生・・・0校
- オ 1・3・5・6年生・・・0校
- カ 1年生のみ・・・0校

【国語】

- ア 1～4年生・・・0校

平成16年度と平成27年度の違いを比較すると、この10年でいかに東京都・小金井市・各学校が力を合わせることで加配教員の活用が安定し、教科・配当学年を含め習熟度別少人数指導の向上・充実していったかが理解できる⁷⁾。

しかし、そこには10年間のたゆまぬ工夫と努力の積み重ねがあったことはいまでもない。そこで、次に各校での積み重ねをしていく上での指針を見る。

Ⅲ 習熟度別少人数学習指導を効果的に推進するための各校の指針と実践事例

小金井市において、習熟度別少人数学習指導を効果的に推進し、その教育的成果を確実にするためにまず、少人数学習指導から始めることとした。

それは、一挙に習熟度別の学習集団を構成した授業を始めるには、内容と方法などについて保護者の理解が十分に得られていないことと教員の新たな取り組みへの抵抗感を払拭できていないと校長会での判断があったと考えられる。

そこで、各校の実情を鑑み指針を示し、その推進を図ったのである。

1. 保護者の理解を高める

習熟度別少人数学習指導に限らず、新しい教育活動を取り入れる際には、保護者の理解と協力を得ることが不可欠である。特に、少人数学習集団による習熟度別の集団編成の実施については、児童の間に不要な差別意識が生じるのではとの保護者の声が聞こえてい

た。

そのために、その実施のねらいや方法、配慮点などを丁寧に説明し、誤解が生まれないようにするとともに、協力体制を整えておく必要があった。そこで、以下の取り組みを行った。

(1) 会合等の活用…保護者会やPTAの役員会、運営委員会などで説明

(2) 学校からの配布物の活用…学校だより、学年だより、学校案内などで説明

(3) 授業公開日の活用…授業参観日や学校公開日に実際の指導の様子を公開

2. 教員の意識改革を進める

習熟度別少人数学習指導を効果的に進めていくためには、その実践者である教員自身はその意義や方法を深く理解しておくことが大切である。教員の中には、保護者と同様に習熟度別指導に抵抗感をもっている者もいた。

また、意義は理解していても実践力が伴わず、ねらいに即した指導ができないこともある。そうした実態を改善していくためには教員の意識改革を図るとともに、少人数学習集団による指導技術、とりわけ、習熟度別、課題別集団編成にした時の学習内容の構成に関する力量を高めていく必要があった。そこで、以下の取り組みを進めた。

(1) 教員への周知と実践意欲の喚起

年度当初の職員会議で少人数学習指導のねらいや方法について説明し、共通理解を図る。

(2) 研修会の実施

校内研修会に少人数学習指導を効果的に進めている他地区の教員を講師として招聘、指導室訪問の際での指導も依頼をして、その効用、方法について理解を深める場の設定。

また、校内研究に習熟度別少人数学習指導による研究授業を計画・実施し、具体的な実践の場を通して理解の深化を図る。

(3) 日常の指導の繰り返し

管理職が授業観察を通し、児童の実態にあった指導内容、課題、教材の工夫、評価のあり方等を指導。

少人数学習指導に消極的な教員は、自己申告の面接において、その意義についての指導⁸⁾。

3. 少人数学習指導の運営体制をつくる

少人数学習指導を円滑に進め、かつそれを実効のあるものにし、習熟度別少人数学習指導を推進していくには、かかわる教員のみならず学校全体でその実施を支えていく運営体制を確立しておくことが大切である。そのために次のような取り組みを行った。

(1) 指導計画の作成

加配教員に少人数学習指導の年間指導計画を作成させ全体に示し、共通理解のもとに見直しをもって指導にあたれるようにする。

また、年間指導計画に基づいて、加配教員に週毎に指導計画を作成させ、指導者同士がそれをもする。

(2) 打ち合わせの時間の確保

随時の打ち合わせの時間の他に、月に数回ある学年会の一部を少人数学習指導について話し合う時間とする。

(3) 推進、評価、改善のための校内組織づくり

校長、副校長、主幹、加配教員、指導学年の主任からなる少人数学習指導委員会を設置し、実施する過程で生じた様々な課題について話し合い、改善の方策を考案する。

(4) 指導法の評価、改善

加配教員に指導後の反省事項を週の指導計画に朱書きで記録させ、年度の指導計画立案の資料とするようにした。また、効果的な教材、教具は保管する。

さらに少人数算数部会や国語部会を学期毎に開催し、指導と評価について振り返らせ、指導法の改善すなわち習熟度別少人数学習指導についての検討の場とする。

これらの指針を各校の実情を鑑み実践を積み重ねることで児童・保護者・教員の意識が変わり、各校の学校評価・自己評価表の達成度を見ると習熟度別少人数指導は着実に実施されるようになり向上した⁹⁾。

そこで、次にその具体的実践事例を示す。

IV 習熟度別少人数学習指導を効果的に推進するための工夫の実践事例

1. 1年生の少人数学習指導をスムーズに導入していく工夫

1年生の少人数指導の実施に際し、各校の1年担任の多くが導入には消極的であった。その理由として、1年生が学級の枠を外すということは児童の混乱を招くこと、学習の進度を調整するのが困難であるなどがあげられた。

市は少人数学習指導導入前の夏休みに、1年担任・少人数担当講師を集め、速やかに導入できるように研修会を開催した。また、週3～4時間の授業に対し1～2時間の打ち合わせ時間を予算化し、教材研究・打ち合わせの時間を確保した。

しかし、1年担任からは1学級2分割や、T・T指導の要望が依然として強かった。

各校では管理職がリーダーシップを発揮し、市の施

策を基礎学力向上のための指導法の改善、学校を組織として活性化させる「チーム00小学校」への意識改革に取り組んだ。

(1) 保護者への広報の充実

保護者会やPTAの各部会などでの広報を積極的に行うとともに、学校便りで3学級4分割、担当は順番に替わることなど少人数学習指導の趣旨を保護者に知らせるという方法をとった。

さらに、加配教員の配置が決まった段階で、次年度の方針を学校だよりなどで保護者に伝え、実施の方向で進んでいることを明確にした。

また、新年度の各学年の保護者会で、校長より実施の方向性を説明する機会を設けた。

(2) 学級集団を分割することへの教員への心理的影響への配慮

学級の子供を他の教員に任せられないという教員の意識から分割への抵抗が大きく、なかなか導入できないという状態があった。

そこで、1年生担任と副校長とで、学習集団の人数を減らすと言う視点から方法を話し合わせ、3学級4分割は市の方針通りであったが、図2のような編成を考えさせた。

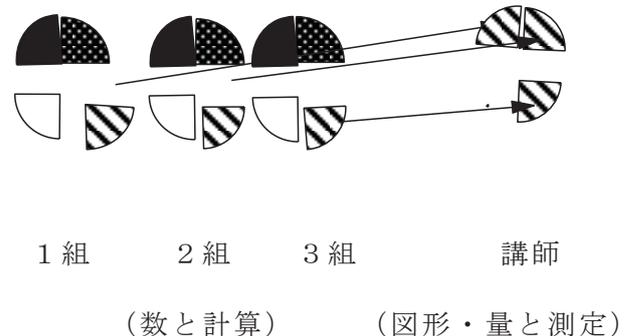


図2. 学級集団の分割方法

この方法は学級を母体とすることにこだわった編成と言える。指導内容については、担当講師と担任で単元を分けて指導しなければならないということになる。そして、講師は4分割された各学習集団を順番に担当し、担任とは違う単元を指導していくことになる。担任は残った自分の学級の児童を指導し、他の学級の児童は指導できないことになる。

この分割方法だと、学級王国的な考えの排除にはならず、指導内容も限定されるが、学級を開くことへの意識の変化を目指して、習熟度別少人数学習指導を着実に実施するための手立てとしては有効であった。なぜなら、このような分割方法による課題を教員自らに発見させ、解決策を提案させ実施することの積み重ね

で、現在では習熟度別少人数指導が実施されているからである¹⁰⁾。

2. 少人数学習指導に対する抵抗感を解消し、導入していく工夫

個に応じた教育を推進していくためには、学習集団を小さくしたり、指導方法を改善していく教員の姿勢が必要である。しかし、教員の間には、学級の枠を外すことや、習熟度別や課題別という学習スタイルに対する抵抗感や関心の薄さが見られる。そこで、導入時や実施していく中で管理職がどのような取り組みを行ったのかを見る。

(1) 複数学級を複数分割することを基本とした時間割の編成

少人数学習指導のための加配教員を申請する際に、少人数学習指導の趣旨（複数学級を複数分割することを基本とする）や教員加配の必要性に対して共通理解を図り、学級担任から学年担任への意識改革を図っていた。

意識面だけでなく、運営上の配慮として目に見える形で時間割の編成を配慮した。教務主任との連携で各学年の算数の授業を他の専科の時間割を組む前に、同じ時間に固定させ、いつでも学級を複数分割して、学年として少人数の学習が滞りなくできるように工夫をした。

加えて、管理職は加配教員の指導と学年ごとの実施状況を週案簿と授業観察などで常に把握することに努めた。そして、指導助言を行う際、算数の学習で児童に身につけたい力や問題解決学習の展開の仕方などの指導法に関することなどの資料を提供した。さらに、他校の様子を紹介し研修の機会をもち、意識を高めていった。

(2) 教員の意識を人事考課制度を活用して高める

授業観察を通して、児童の実態に合った指導内容、課題、教材の工夫、評価のあり方を指導していく。また、日常的に指導方法を高める助言を行う。また、自己申告に伴う面接において、基礎学力を充実させるための指導の一貫として、少人数指導の重要性を指導する。

校内研究の中に少人数指導の研究授業を位置付け、指導のあり方、効果などについて共通理解を図る。また、校内研修会でも少人数学習指導を実施している学校の教員を招き、その指導の利点や効果、指導方法、指導内容などについての理解を深める。

学校公開の場を保護者や地域の方へのアピールの機会として、指導方法の見直しや改善につなげていく。

教育委員会学校訪問などの機会を利用して、授業を公開し、指導を受ける機会をつくる¹¹⁾。

V まとめと今後の課題

1. まとめ

少人数学習指導の積み重ねが進むにつれ、習熟度別少人数学習指導の導入時の抵抗が薄れ、実施の方法には違いがあっても各校で学級を開くことへの教員の意識に変化が見られ、「学校はチーム」に風土が醸成された。

そして、推進していく中で、一人一人の子供に個別により対応できる時間を増やすようになり、子供が意欲的に取り組むようになってきたという実態が見られるようになったことは、各校の学校評価・自己評価表¹²⁾の結果からも明らかである。

さらに、教材、教具や評価の在り方など、学年単位で見直し、指導方法を工夫する教員が増え年度ごとの「授業改善プラン」¹³⁾の作成に役立っている。

そして、その成果は小金井市における全国小中学校教育課程実施状況調査報告や東京都の学力状況調査報告に明確に見ることができる¹⁴⁾。

2. 今後の課題

習熟度別少人数学習指導に分割したそれぞれの学習集団でいかに一層の学習の効果を上げるかである。学習の効果とは、それぞれの集団の子供たちが学び合いを通じ、基礎学力の定着を確実なものにし、学び合いの充実から自己有用感・自尊感情・自己肯定感を高めることである。

習熟度別少人数学習指導は、子供を競わせるためのものではない。競争で得た自己有用感・自尊感情・自己肯定感は、場面と相手が変わればすぐに崩れてしまう。しかし、自己の内面から培われたものは決して揺るがない。

まさにそのために、統合組織体としての学校はチームとして各分掌と教員間の連携を密に図り、さらなる指導方法の改善と工夫が求められている。

換言すれば、新学習指導要領がかかげる「社会に開かれた教育課程」¹⁵⁾における育成すべき三つの柱としている知識・技能（何を理解しているのか、何ができるのか）、思考力・判断力・表現力等（理解していること、できることをどう使うか）、学びに向かう力・人間性等（どのように社会、世界とのかかわりよりよい人生を送るか）の資質・能力を図るため平成30年度小学校先行実施を思うと「学校はチーム」という視点での組織の活用・分掌や地域・保護者との連携、さらなる児童理解を深め研修と教員の意識改革を如何に継続的に実施し、習熟度別少人数学習指導の充実を図るかである。

文献

- 1) 習熟度別少人数学習指導実施調査報告 平成28年 文部科学省
- 2) 平成13年度小中学校教育課程実施状況調査 国立教育政策研究所
https://www.nier.go.jp/kaihatsu/katei_h13/top.htm
- 3) 平成14年度 文部科学省白書 第一部 第二章 第二節 平成15年 文部科学省
- 4) 平成14年度小金井市公立学校長会紀要 平成15年 小金井市公立学校長会
- 5) 小金井市基礎学力向上事業
file:///C:/Users/Owner/AppData/Local/Microsoft/Windows/INetCache/IE/T7PGLYCM/koubo_chirashi.pdf
- 6) 厚生労働省雇用創出事業 厚生労働省
http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/koyou/chiiki-koyou/chiiki-koyou3/index.html
- 7) 小金井市における各小学校の加配教員状況
<https://www.city.koganei.lg.jp/shisei/kakuka/kyoiku/index.html>
- 8) 小金井市公立小学校ホームページ・各校学校だより
<https://www.city.koganei.lg.jp/smph/kosodatekyoiku/gakkou-kyouiku/syou-chuugakkou/index.html>
- 9) 小金井市公立小学校ホームページ・各校学校評価・自己評価表
<https://www.city.koganei.lg.jp/smph/kosodatekyoiku/gakkou-kyouiku/syou-chuugakkou/index.html>
- 10) 平成24年度 小金井市公立学校教育研究会発表会資料集 平成25年 小金井市教育委員会
- 11) 小金井市公立学校ホームページ・各校学校経営方針
<https://www.city.koganei.lg.jp/smph/kosodatekyoiku/gakkou-kyouiku/syou-chuugakkou/index.html>
- 12) 小金井市公立小学校ホームページ・各校学校評価・自己評価表
<https://www.city.koganei.lg.jp/smph/kosodatekyoiku/gakkou-kyouiku/syou-chuugakkou/index.html>
- 13) 小金井市公立学校ホームページ・各校授業改善プラン
<https://www.city.koganei.lg.jp/smph/kosodatekyoiku/gakkou-kyouiku/syou-chuugakkou/index.html>
- 14) 平成28年度 東京都教育委員会・児童・生徒の学力向上を図るための調査報告
<http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/press/pr120112a/siryou1.pdf>
- 15) 次期学習指導要領にむけたこれまでの審議のまとめ（素案）のポイント 平成28年8月 中央教育審議会
level:file:///C:/Users/Owner/AppData/Local/Microsoft/Windows/INetCache/IE/IIFZ5MS/1375316_2_1.pdf

Promotion of Learning Guidance by a Small Number of Students by Degree of Proficiency and Future Problems: Consideration through Actual Practice of Koganei-shi

Yoshihiro OGAWA *

* Department of Living Science, Teikyo Junior College

Abstract

In this paper, I will discuss how the learning guidance by a small number of students by proficiency degree in the report on the survey results of the primary and secondary school curriculum status survey conducted by the National Institute for Educational Policy conducted in FY 2001 was promoted. I will examine how you promoted in Koganei-shi. And I will pose the future problems.

Contents of the paper are as follows. 1) Outline of Promotion of Small Group Study Instruction by Proficiency Level in Koganei-shi. 2) Examples of concrete policies and practices. 3) Conclusion and future problems.

Keywords : Small Group Study Instruction by Proficiency

